

2025 年度第 2 四半期決算説明会における主な質疑応答

(2025 年 7 月 31 日 (木)、東京)

- Q1. 中間期の営業利益の増減分析において、生産性・稼働率による増益が大きいですが、その中身を教えてください。
- A1. ディスプレイ事業における生産性改善の効果が大きいと考えています。2023 年度に韓国拠点を閉鎖し、他の拠点の稼働率を上げてきた効果がしっかりと表れてきました。また、全電気溶融炉への切り替えを進め生産性を上げてきたことも要因です。全電気溶融炉への転換は今後も続けていきますので、来年度以降も効果を出していきたいと考えています。
- Q2. 下期の営業利益が上期に比べて減益見込みとなっている背景を教えてください。
- A2. 売上高については、上期と下期で大きな差はないと考えています。営業利益については、ディスプレイ事業では、来期以降も需要が伸びると見えていますので、それに備えた設備の修繕を行います。電子デバイス事業でも、今後成長が期待される製品への投資を増やしていきたいと考えており、その費用を織り込んでいます。
- Q3. 半導体用サポートガラスの好調な需要は継続する見通しか。
- A3. 生成 AIなどを背景に半導体用サポートガラスの引き合いは非常に多く、現在のところ下期に対する懸念はありません。昨年からの投資している設備が下期に立ち上がってきます。お客様の強い需要に対応できるよう努力してまいります。
- Q4. 複合材事業の事業環境と損益改善の状況について教えてください。
- A4. 需要が回復しない中で、厳しい競争環境が継続しています。そのような環境下でも、生産体制の見直しや生産性改善を進めて、四半期ごとに損益は改善してきました。下期には利益を出せる体制にしたいと考えています。当社の製品は、特性面や納期面でお客様にメリットがあり、一定のご評価をいただいています。また、より高機能の製品のご要望もいただいていますので、開発案件のひとつとして取り組んでいます。
- Q5. 複合材事業では英国子会社の事業活動を停止したが、それによる業績への影響はどのくらいか。この他に構造改革や減損のようなものは考えているか。
- A5. 英国子会社の生産を 6 月末に停止し、当第 2 四半期に事業構造改善費用として特別損失を計上しました。販売活動は第 3 四半期まで続きますが、他拠点で代替生産できるものも限られていますのでグループ全体では売上高は減少する見込みです。一方、生産を停止したことで損失を抑えることができ、利益面で寄与すると考えています。構造改革については、常に想定して事業運営にあたっています。

※このメモは、投資家の皆様へのご参考として掲載するものです。

※このメモは、説明会における質疑応答の一字一句を全て書き起こしたものでなく、弊社の判断で簡潔にまとめさせていただいておりますので、ご了承ください。

※このメモには、将来の弊社の業績や弊社を取り巻く業界の環境に対する予想が掲載されています。これらは弊社グループが開示時点で入手可能な情報に基づく判断によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。また、このメモの内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。